

田んぼや畑の土には、砂や粘土などいろいろな大きさの粒が含まれており、含まれる粒の大きさによって土の感触も変わってきます。どこにでもある身近な土を使って、土の感触を楽しみながら遊ぶことができます。

この活動のねらい

里山の田んぼや畑の土を材料に泥だんごをつくり、身近にある土に触れる。また、土遊びを楽しみながら田んぼや畑にある土の色や手ざわりなどの性質を知る。

準備物

- いろいろな土
- 水
- バット(水を混ぜた土が入る容器であれば可)
- プラスチックのコップ(土をかき集めるのに便利)
- ネット
- タオル
- ジャージ生地の布(泥だんごをみがく時に使用)

活動内容

1 土を集めます。

- ①田んぼや畑、雑木林、草地などいろいろな場所の土を別々に採取します。
※土の量は、1か所につき大きなペットボトル1本分くらいあれば十分です。
- ②採取した土から葉っぱや植物の根、虫などをとりのぞき、土をよく乾かします。
- ③②の土をア～ウのように3つにわけてバットに入れます。
 - ア そのままの土
 - イ ネットなどで細かい粒だけをふるった土 **写真1**
 - ウ 水を混ぜた土 **写真2**



2 泥だんごをつくります。

- ①用意した1の③ウの水を混ぜた土をぎゅっとにぎりしめて水分をしぼり、1時間ほどかけて泥だんごを固めます。ここで丸く固めた泥だんごが核になります。**写真3**
※泥だんごの核をタオルなどの上に置いて泥だらけの手をよく洗ってから、次に進みましょう。
- ②泥だんごの核の上から、1の③アの乾いた土をかけ、軽く表面をなでることをくりかえします。**写真4**
※この作業を1～2時間ほど続けるときれいな球状の泥だんごができます。



3 泥だんごを光らせます。

- ①1の③イの細かい粒だけをふるった土を手につけ、やさしく表面をなで続けます。
※この作業を2時間以上続けるとツヤがでできます。**写真5**
※なでていると手によごれがついてくるので、タオルなどで手のよごれを拭き取りながら作業を進めましょう。
- ②最後にジャージ生地の布でみがくと、光る泥だんごの完成です。



〇まとめ ☆発展

- できた泥だんごの性質から里山の田んぼや畑、雑木林の土の性質について考えてみましょう。
- ☆黒い土や赤い土など、里山のいろいろなところで採取した土を用いて泥だんごをつくり、できた泥だんごを飾って比べてみましょう。
- ☆里山環境のどこにでもある「土」のはたらきについて考えてみましょう。